



布施だより

《 自信を身にまとう時 ～第49回銀河祭の追究から～ 》

生徒諸君は、活動の主人公として活動したり活躍したりしている時、その一生懸命の活動の中にいるが故、自分自身があるいは自分たち自身がどれくらい素敵に成長しようとしているか気づかないことがほとんどです。

それは合唱活動を例にとってみると明らかです。学級、学年、全校合唱の際、パートの一員としての責任を果たすことが精一杯で、全体としてのハーモニーがどんな風に会場に響き渡っているのか、冷静にそして正確に把握できないのです。

(歌声のボリュームとして伝わってくる実感や拍手の大きさなどから、何となくは分かるのですが・・・)

そして、それは私たち教職員自身もそうなのかも知れません。共に追究してきた一員として(ステージと一緒に立つわけではないのだけれど)手に汗を握りしめてしまって、あるいは生徒と同様に緊張してしまって、はたまた次から次へと進む追究の速さの中で、その追究までの成果と達成と踏ん張りを理解しきれなかったり、伝え切れていなかったりするのです。

そこで私たちは、「第49回銀河祭」を通じて、どれだけ生徒諸君が成長したのかを確認し合う機会をもちました。ひとりひとりの教職員が、身近で頑張ってくれようとしてくれた生徒の追究を書き記し、それを職員会議で披露しました。

書き記されているエピソードとドラマは、その個人個人のものかも知れません。でも、そこに通じる気迫と勇気・思いやりや優しさ・根性と踏ん張りは、西中生徒諸君みんなに共通するものです。

みんなが仲間と協力した銀河祭を通じて身につけた<自信>の軌跡なんです。

◇ ～学芸委員としての自覚と責任、そして自信。Aさん～ ◇

クラスでの合唱練習が始まり、追究のほとんどを学芸委員に任せた。その中でもよく動いてくれたのがAさん。今までクラスの先頭に立つ機会は少なかった。

始まりの呼びかけ、追究の指示、歌い終わった後の感想。今までの彼女からは想像できない、堂々とした姿があった。時にはクラスに呼びかけておきながら自分が友達とおしゃべりなんて日もあった。しかし、自分のやるべきことを再確認すると、自身の役割を自覚し、どんな時でも全力で取り組んできた。

そして銀河祭を終えたある日、授業で積極的に発言するAさんの姿があると、教科担任の先生



からお聞きした。クラス合唱を通して、自覚と責任、そしてやりきった自信が、今の生活に生かされているのではないだろうか。



◇ ～認め合う姿～ ◇

銀河祭は2学年の生徒にとってお互いの新たな一面を知る絶好の機会になったように思います。あるクラスでは、普段は人前でリーダーシップを取らない生徒が、ステンドグラス製作ではたくさん案を出し、どうすれば下書きのようにできるのかを考え、クラスメイトに指示を出していたり。

またあるクラスでは学級旗の製作で、慣れないミシンを持ってきて、一生懸命縫い物をする男子がいたり。あまり人前に立つことのなかった生徒が一生懸命呼びかけをしていたり。そういった姿を認め、「すげーな!」「プロいね!」と褒め合う姿が見られたり。

普段は、なかなか周りに目を向けることができない生徒が、ひとつの追究を一緒に行う中で、褒め合ったり、認めたりすることが出来ていたように感じました。今後もさまざまな場面で、お互いを認め合い、自分に自信をもって行って欲しいなあと思います。



◇ ～自分を堂々と語ったBさん～ ◇

夏休みの『自分の家族の戦争体験』では満州に渡ったおばあちゃんが中国の方々に助けってもらい自分への命を繋いできたことをまとめてきたBさん。銀河祭では3年生の総合学習のまとめとして、家族の戦争体験を発表することができました。そこには仲間が受け止めてくれるという安心感があり、だからこそBさんは自分に自信をもち、臆することなく話をすることができたのだと思います。今回の銀河祭での経験を経て、これからの学習にもさらに力を入れていくことができることでしょう。



◇ <縁の下の力持ち> ◇

銀河祭の購買委員会の仕事メインは、暗幕の枚数の確認、準備、片付けでした。授業内のC君は、クラスの中でもあまり目立たぬ存在。しかし、この購買委員会での活動で、誰よりも積極的に、また、暗幕を丁寧にたたみ、収納してくれました。正、副委員長が準備の段階でしまいきれ

なかった暗幕をいとも簡単に片付けたり、壊れかけた棚も黙って修理までしてしまうというすばらしい姿でした。

みんなが面倒臭がっていた仕事を一手に引き受け、目を輝かせて行なっていました。目立たぬ仕事ですが、影の部分で働いている人がいるおかげで活動が当たり前に回っていくんだなあと感じました。今後も自分の持ち味を生かし、頑張ってもらいたいです。縁の下の力持ち、Cくん、格好よかったですよ。



生徒の追究活動の本質的な良さを意味づけ、価値付け、それらを生徒諸君に返してやるのが私たち大人の責務です。それは学校生活の中だけではなく、地域社会の活動の中で、社会体育の活動の中で、家庭生活の中で、どこでもいつでも差し伸べることのできる大人の度量の一つですね。

《「お話し」に接するとき ～「おはなしの会」「泉の小箱」の皆様～ 》

「秋の読書旬間」の活動の一環として、1・2学年生徒対象に「お話し」が開かれました。

14日（火）には、2学年のみんなが「おはなしネットワーク」の皆さんによる『さるのこしかけ～宮澤賢治』と『公正な裁判官～トルストイ 作～』を、17日（金）には、1学年のみんなが「虹の小箱」の皆さんによる『神ネズミと唐猫 ～民話～』と『きつね女房 ～民話～』をお聞きしました。

プロジェクターに映し出された絵本に目をやりながら一気に物語の世界へ引きずり込まれ、シンセサイザーから醸し出される効果音にワクワクドキドキのひと時でした。

また「読書旬間」にちなんで、お昼の放送では先生方による＜読書紹介＞がなされています。図書委員会から依頼を受けた先生方が、好みの1冊や好きな作家を紹介しています。小説や作家について語り合えることもこの時期の中学生諸君と触れ合う面白みの一つです。



《 秋のスポーツ活動に収穫の時です！ 》

- <ソフトボール部> 県 1回戦 対広陵 ○7-2 2回戦 対茅野東部●0-2
3位決定戦 対篠ノ井東○7-0 県第3位
- <サッカー部> 北信1回戦 対附属長野●0-4
- <野球部> 1回戦 対川中島○8-5 2回戦 対豊野○5-1
準々決勝 対信濃 ○11-4 準決勝 対松代●3-4 北信第3位
- <柔道部> 男子団体 第3位 女子団体 第2位
男子個人戦 松原夏樹さん 第3位
女子個人戦 山口理聖さん 第1位 平林笑佳さん 第2位
いずれも北信大会出場へ
- <剣道部> 女子個人戦 高橋舞さん ベスト8 北信大会出場へ